# 2015 年度 事業報告



公益財団法人 知床財団

# 目 次

公		益	<del>事</del>	美
公]	L : 普	及対策系事業(独自事業)		
Ι.	野生	三生物との共存のための啓発業務.		2
	1.	地域向け環境教育		2
	2.	学習教材開発・運用業務		2
Π.	国立	五公園利用者サービス業務		3
	1.		ン・環境教育業務	
	2.	知床自然センター内外刷新業務		4
	3.	ルサフィールドハウス周辺整備	構想検討業務	5
Ⅲ.	情報	発信・賛助会員拡大業務		5
	1.			
	2.	一般向け情報発信		5
	3.	ホームページ等インターネット	を活用した広報の強化	6
IV.	賛助	b会員運営業務		6
	1.	会報誌の発行		6
	2.	賛助会員の管理		6
	3.	寄付、賛助会員拡大推進		6
V.	人杉	才育成業務		7
	1.			
	2.	人材育成·就業体験受入業務		7
۸ ۵	n . <del>1/.</del> :	"沙"。"我们是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个		
		設管理系事業(受託事業)		
Ι.				
II.				
Ⅲ.	ルサ	トフィールドハウス管理運営業務.		8
公3	3 : 調	査研究系事業		
				O
••	1.			
	2.		マの生態等に関する調査業務	
	3.		態等に関する調査業務	
	4.	,	気柵導入試験業務	
	5.		グ業務	
	6.			
	7.		ング業務	
	8.		。 る業務	
	9.	シホテアリン世界遺産		
	10.	ヒグマ対策手法の開		12

II. 斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業. 15 1. ヒグマ対策業務. 15 2. 自然環境管理対策業務. 15 III. 野生生物管理事業. 16 1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務. 16 2. エゾシカ生息密度操作関係業務. 16 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務. 16 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務. 16 3. 海域利用適正化推進業務. 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務. 16 V. 科学委員会等運営事業. 16 VI. 自動車規制管理運営事業. 16 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業). 17 VIII. 知床五湖関連業務. 17  公4:森林再生系事業 I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務. 19 2. 岩尾別川再生業務. 19 2. 岩尾別川再生業務. 19 3. 世界別別に対しておける主意を基準を表します。 19 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業). 20 3. 世界別別に対しませませます。 20 4. 日間に対しておける主意を表します。 20 4. 日間に対しておける主意を表しまするように対します。 20 4. 日間に対しておける主意を表します。 20 4. 日間に対しておける主意を表しまするように対します。 20 4. 日間に対しておける主意を表します。 20 4. 日間に対しておける主意を表します。 20 4. 日間に対しておけることがはまます。 20 4. 日間に対しておけるまます。 20 4. 日間に対しておけるように対します。 20 4. 日間に対しておけるように対します。 20 4. 日間に対しておけるように対します。 20 4. 日間に対しておけるように対します。 20 4. 日間に対しておけるように対しまするよ
2. 自然環境管理対策業務 15 III. 野生生物管理事業 16 1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務 16 2. エゾシカ生息密度操作関係業務 16 17. 遺産地域調査事業 16 18. エゾシカの採食による植生への影響調査業務 16 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VIII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VIII. 知床五湖関連業務 17 VIII. 知床五湖関連業務 17 VIII. 知床五湖関連業務 17 VIII. 知床五湖関連業務 17 CA4:森林再生系事業 18 1.
<ul> <li>Ⅲ. 野生生物管理事業</li> <li>1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務</li> <li>2. エゾシカ生息密度操作関係業務</li> <li>Ⅳ. 遺産地域調査事業</li> <li>1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務</li> <li>2. サケ科魚類の遡上状況調査業務</li> <li>3. 海域利用適正化推進業務</li> <li>4. エゾシカ航空カウント調査業務</li> <li>5. 本ゾシカ航空カウント調査業務</li> <li>6. エゾシカ航空カウント調査業務</li> <li>7. 自動車規制管理運営事業</li> <li>7. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業)</li> <li>7. 知床五湖関連業務</li> <li>7. 知床五湖関連業務</li> <li>7. 本林再生系事業</li> <li>1. しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業)</li> <li>1. 森林再生推進業務</li> <li>2. 岩尾別川再生業務</li> <li>1. しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業)</li> <li>2. 普及推進業務</li> <li>2. 普及推進業務</li> <li>2. 普及推進業務</li> <li>2. 普及推進業務</li> </ul>
1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務 15 2. エゾシカ生息密度操作関係業務 15 IV. 遺産地域調査事業 16 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務 16 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 16 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床五湖関連業務 17 CA4:森林再生系事業 17 II. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 2. 岩尾別川再生業務 19 3. 海林再生推進業務 20 II. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21 1. 普及推進業務 22 1. 普及推進業務 22
を推進する業務 2. エゾシカ生息密度操作関係業務 18 18 19 19 20. 力ケ科魚類の遡上状況調査業務 19 30. 海域利用適正化推進業務 4. エゾシカ航空カウント調査業務 10 4. エゾシカ航空カウント調査業務 10 50 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
2. エゾシカ生息密度操作関係業務 15 IV. 遺産地域調査事業 16 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務 16 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VIII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 CA4:森林再生系事業 17 CA4:森林再生系事業 18 1. 라れとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 1. 森林再生推進業務 19 2. 岩尾別川再生業務 19 2. 岩尾別川再生業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21 1. 普及推進業務 21
IV. 遺産地域調査事業 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 3. 海域利用適正化推進業務 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 17 II. 自動車規制管理運営事業 17 III. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業) III. 知床五湖関連業務 17  □ 知床五湖関連業務 18 19 □ な4:森林再生系事業 19 10  □ な4:森林再生推進業務 2. 岩尾別川再生業務 2. 岩尾別川再生業務 2. 岩尾別川再生業務 3. 海球進業務 3. 独自事業) 3. 海球進業務 3. 独自事業) 4. これとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 4. 普及推進業務 3. 独自事業) 4. 普及推進業務 4. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2.
1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務 15 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床五湖関連業務 17 公4:森林再生系事業 18 1. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 1. 森林再生推進業務 19 2. 岩尾別川再生業務 19 2. 岩尾別川再生業務 20 II. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21 11 普及推進業務 21
2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床五湖関連業務 17  公4:森林再生系事業 17  公4:森林再生系事業 18 1. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 1. 森林再生推進業務 19 2. 岩尾別川再生業務 20 II. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 25 III. 世界推進業務 20 III. 世界被認識 20 III. 世界推進業務 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII
2. サケ科魚類の遡上状況調査業務 16 3. 海域利用適正化推進業務 16 4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床五湖関連業務 17  公4:森林再生系事業 17  公4:森林再生系事業 18 1. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 1. 森林再生推進業務 19 2. 岩尾別川再生業務 20 II. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 27 1. 普及推進業務 20 III. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 25 III. 世界推進業務 20 III. 世界被認識 20 III. 世界推進業務 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 IIII. 世界 20 III. 世界 20 IIII. 世界 20 IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII
4. エゾシカ航空カウント調査業務 16 V. 科学委員会等運営事業 16 VI. 自動車規制管理運営事業 17 VII. 知床エコツーリズム総合推進事業 (独自事業) 17 VII. 知床五湖関連業務 17  公4:森林再生系事業 17  ム4:森林再生系事業 (受託事業) 19 11. 本森林再生推進業務 (受託事業) 19 12. 岩尾別川再生業務 19 13. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19 14. 本森林再生推進業務 2. 岩尾別川再生業務 2. 岩屋担産業務 2. 岩屋担産業務 2. 岩屋担産業務 2. 岩屋担産産業務 2. 岩屋担産産業務 2. コードル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 2. 岩屋担産業務 2. コードル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 2. コードル運動に関わる普及推進及び調査事業 2. コードルードル運動に関わる普及推進及び調査事業 2. コードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルードルー
<ul> <li>V. 科学委員会等運営事業</li> <li>VI. 自動車規制管理運営事業</li> <li>VII. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業)</li> <li>17</li> <li>公4:森林再生系事業</li> <li>I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務</li> <li>18</li> <li>1. 森林再生推進業務</li> <li>2. 岩尾別川再生業務</li> <li>1. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業)</li> <li>1. 普及推進業務</li> <li>2. 普及推進業務</li> </ul>
VI. 自動車規制管理運営事業
<ul> <li>Ⅶ. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業) 17</li> <li>※ 知床五湖関連業務 17</li> <li>※ 公4:森林再生系事業</li> <li>Ⅰ. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19</li> <li>1. 森林再生推進業務 19</li> <li>2. 岩尾別川再生業務 20</li> <li>Ⅲ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業) 20</li> <li>Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21</li> <li>1. 普及推進業務 22</li> </ul>
<ul> <li>Ⅶ. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業) 17</li> <li>※ 知床五湖関連業務 17</li> <li>※ 公4:森林再生系事業</li> <li>Ⅰ. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19</li> <li>1. 森林再生推進業務 19</li> <li>2. 岩尾別川再生業務 20</li> <li>Ⅲ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業) 20</li> <li>Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21</li> <li>1. 普及推進業務 22</li> </ul>
<ul> <li>VII. 知床五湖関連業務</li></ul>
公4:森林再生系事業         I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務       (受託事業) 19         1. 森林再生推進業務       19         2. 岩尾別川再生業務       20         II. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業) 21       21         1. 普及推進業務       25
<ul> <li>I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19</li> <li>1. 森林再生推進業務 19</li> <li>2. 岩尾別川再生業務 20</li> <li>Ⅲ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21</li> <li>1. 普及推進業務 20</li> </ul>
<ul> <li>I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業) 19</li> <li>1. 森林再生推進業務 19</li> <li>2. 岩尾別川再生業務 20</li> <li>Ⅲ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業 (独自事業) 21</li> <li>1. 普及推進業務 20</li> </ul>
<ol> <li>森林再生推進業務</li></ol>
2. 岩尾別川再生業務
Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業(独自事業) 21 1. 普及推進業務 22
1. 普及推進業務2
2. 岩尾別川における基礎調査及び生物相復元21
収     益     事     業
収1:収益事業
I. 販売・有償貸出業務
Ⅱ. 研修実習受入業務
他1:その他の事業
I. JBN業務
法 人 会 計
法1:財団法人管理運営事業

# 公1:普及対策系事業 (独自事業)

# I. 野生生物との共存のための啓発業務

#### 1. 地域向け環境教育

#### 野生生物との共存への理解を推進する教育

ウトロ小中学校全校児童・生徒を対象とした、また、以久科小学校の全校児童を対象としたクマ授業を実施しました。

また、知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目標に、職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を今年も設けました。このクマ端会議の開催は、今年度で3年目を迎えました。ウトロの日頃のヒグマ出没状況や知床財団の対応について住民にお伝えしながら、住民の方々と意見交換をするよい機会となりました。

羅臼町では、今年度から幼小中高一貫教育のカリキュラムとして、ヒグマ授業を計9回実施しました。羅臼町内の幼稚園と小学校5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全生徒を対象に、各学校に出向いて授業を行いました。また、町内に2つある小学校のうちのひとつ羅臼小学校では、3・4年生を対象にしたクマ学習も実施しました。

#### 地域の自然への関心を高める教育

ウトロ小学校の総合学習の一環として、10 月に  $1\sim2$  年生を対象とした身近な植物を題材とした授業を実施しました。

11月に朝日小学校6年生を対象に総合学習の一環として知床の自然保全と観光振興について授業を行いました。

羅臼中学校2年生の総合学習の時間では、「ふるさと調べ学習」の講師として知床の 生き物に関する授業を2回実施しました。

羅臼町公民館などと共に羅臼町内の小学生を対象にして実施している知床キッズ (羅臼町ふるさと体験教室) は、5月から2月までの間に計10回の講座を企画しました。今年度で2年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も、引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様で、羅臼とウトロでそれぞれ実施し、6月には羅臼から船に乗り知床岬へ出かけてゴミ拾い活動を行いました。7月には、ウトロのチャシコツ崎で浅瀬の生き物を学習しました。

#### 2. 学習教材開発・運用業務

今年度、ヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸出実績は9件、2号機の貸出実績は3件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、

知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

今年度は、新たに海獣版のトランクキットが完成しました。キットの中には、実物大のシャチを描いた大判の布や、アザラシ類の毛皮、かつてアイヌの人々が使用していた回転式離頭銛の模型など、知床の海獣類に関する小物を詰め込んでいます。今後、職員の講演や施設でのレクチャー時に活用していきます。

# Ⅱ. 国立公園利用者サービス業務

# 1. ビジター向けインフォメーション・環境教育業務

#### 知床自然センター

#### レクチャー・キャンペーンの実施

ゴールデンウィークや夏休み期間中、知床の自然の魅力や課題を分かりやすく伝えるミニレクチャーを 31 回実施し、431 人(昨年度実績 415 人)の参加がありました。 実施時には、併せて財団活動のPRも行い、37,080 円の募金を集めています。

地域で取り組む知床ヒグマエサやり禁止キャンペーンの一環として、メッセージボードを館内に掲示し、来館者にメッセージを掲示していただきました。ヒグマと人との共存についての特別展示とモニターを設置し絵本上映も併せて行いました。

#### ロビー寄付

館内2ヶ所に募金箱を設置し、募金の呼びかけを行いました。シカ角の破片やダイナビジョンフィルムを加工したハンドメイドのしおり等を置いて、募金のお礼の品としました。その結果、今年度は総計494,548円の募金を集めることができました。

#### ビジター向け情報の収集・整理

フレペの滝遊歩道、および知床自然センター周辺における自然情報収集を定期的に実施し、インフォメーション業務や自然情報ブログ、館内展示に積極的に反映させました。「フレペの滝遊歩道の植生や開花状況を調査し、標本採集も行う「フロラ・オブ・フレペ」プロジェクトを昨年より継続して実施しました。こうした調査により得られた情報をもとに自然情報ブログではリアルタイムな開花情報を公開し、館内には花暦の展示を作成しました。

#### 羅臼ビジターセンター

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥 行きのある自然解説を行うため、ミニレクチャーを実施しました。今年度は特に、特 定外来種となっているセイョウオオマルハナバチの生態や駆除活動についての解説と、 羅臼の漁業にかつて欠かせなかったガラスの浮き玉の編み方を体験していただきなが ら行う漁業についての解説を実施しました。

実施は、特に来館者が多く見込める夏休み期間に集中して行い、計 10 回、73 人の方にご参加いただきました。

#### ルサフィールドハウス

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさ、新しく展示物を作成した昆布漁等について解説を実施しました。

#### 五湖フィールドハウス

知床五湖利用調整地区の指定認定機関として4月から10月まで職員が常駐しました。 散策路の環境や位置関係が一目でわかるように園地全体のジオラマを館内に設置し、 制度説明や遊歩道の状況、自然情報の提供に活用しました。また、来館者の多様なニ ーズに対応するため、英語表記による情報発信を強化しています。また、知床ガイド 協議会と協力し、ガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者へのサービスを継続し ています。

## 2. 知床自然センター内外刷新業務

#### リニューアル準備作業の実施

センターの改修工事が実施されることから、過年度から継続してきた検討をもとに、 具体的なアクションプランを立案し、係横断的編成した作業チームを中心に実施しま した。リニューアルにあたっては「フィールドを知り、楽しむための国際ビジターセ ンター」をコンセプトに、国立公園のフィールドを楽しむための「拠点機能」とゆっ くりと休憩し楽しめる「滞留機能」の強化を目標としました。

利用者サービス・情報提供・館内展示・映像ホール・レクチャー等の運用等について、施設の改修と併せたソフト面の刷新に向けた準備を行いました。

#### イベントの実施

9月19日から27日のシルバーウィーク期間には、「今年の秋はフレペに行こう!」をテーマとしたイベントを北海道オホーツク総合振興局と共同で実施しました。期間中は、本年に新しく開発した「フレペの滝デジタルガイドマップ」の活用や散策レクチャーを実施しました。レクチャーの参加数は923人となり、新たなフレペの滝遊歩道の魅力を伝えることができました。また9月25日には、紋別海上保安部の協力により、フレペの滝と宇登呂灯台を見学する「フレペの滝と灯台トーク」を実施し、20名の参加者が灯台からの景色を楽しみました。定員を超える申し込みがあり、継続を希望する声も多く寄せられました。

#### 3. ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

昨年度本事業で実施した、ルサフィールドハウスと周辺地区の利活用の検討の中で、ルサフィールドハウスでの滞留機能の向上のため、飲食サービスを提供する提案がありました。本年度はこの提案を受け、ルサフィールドハウス来館者の増加と知名度の向上を目指し、フィールドハウスで飲食を提供する「ルサ・カフェ」を 9 月  $9\sim14$  日に施行しました。6 日間で飲み物 250 杯、アイス 45 個、鮭とば 50 個、お菓子 235 個を販売し、多くの来館者があったとともに、町民にも好評な取組でした。

# Ⅲ. 情報発信・賛助会員拡大業務

#### 1. 地域向け情報発信

知床財団の活動に対する理解と協力を得るために、地元やその他の地域に向けて財団活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009 年度より知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。今年度は2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました(発行部数:斜里町5.050部、羅臼町2.000部)。

知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」を作成ました。同たよりは、A4サイズ白黒で、ラミネート加工したものをウトロの宿泊施設および観光関係施設(全 27 施設 )に配布しており、宿泊者への情報提供に役立てていただいています。

斜里町公民館ゆめホール知床において、7月4日世界遺産10周年の記念式典・講演会が、また翌日5日には関連行事として世界遺産セミナーが開催されました。知床財団ではこの2日間会場ロビーにブースを出展、活動紹介パネルの展示の他、トランクキットや、賛助会員向け情報誌SEEDSの紹介などを行いました。

JA 斜里町1階の JA バンクの入口にスペースをご提供いただき、ヒグマと人の間で起こっている問題やそれを軽減するための知床財団の活動を紹介するパネルなどを夏休み期間中に合わせて展示させていただきました。

しゃり木育ねっとからの依頼で、1月15日から17日の期間中ゆめホール知床で行われた「木育キャラバン in しゃり」の展示ブースに出展し、森やそこに住む動物たちの話、知床財団の活動について紹介しました。

#### 2. 一般向け情報発信

会報誌 SEEDS を活用して、観光客を対象とした知床財団の PR や賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011年の夏より、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、SEEDS を町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。

協定先の旭川市旭山動物園に設置していた「しれとこシカ絵巻」は、設置から 6 年

が経過して展示物が退色、劣化してきたことから、掲載内容も含めて一新しました。 また、図書館には賛助会員募集のパンフレットや SEEDS のバックナンバーファイル が引き続き設置されており、知床財団活動の PR、賛助会員獲得にむけた広報にご協力 いただいています。

## 3. ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるための「伝える活動」として、ホームページでの情報発信を継続して行っています。今年度は、SNS(Social Network Service)を活用した広報媒体として、Faccebook、Twitter を導入しました。Twitter は、知床自然センターのホームページにリンクを張り、知床自然センター周辺のその日の天候の状況や施設のイベントなど、リアルタイム情報の提供のためのツールとして活用しています。Faccebookでは、知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られるブログを都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容についても随時記載しました。

また、知床のヒグマ対策について HP 上でわかりやすく紹介するページを設置し、公開しています。

# Ⅳ. 賛助会員運営業務

#### 1. 会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報紙「SEEDS」を4回発行、会員の皆様や 関係機関の方に発送しました。

# 2. 賛助会員の管理

今年度の新規の入会状況は、年個人会員 96 件(前年度 110 件)、個人終身会員 11 件(前年度 15 件)、年法人会員は 9 件(前年度 3 団体)、法人特別年会員は 2(前年度 1 団体)件でした。個人会員、個人終身会員は前年度を下回ったものの、法人会員は、前年度を上回る結果となりました。

#### 3. 寄付、賛助会員拡大推進

知床財団の活動をひろく一般の方や企業へPRし寄付拡大へとつなげるため、東京で開催された国内最大級の環境イベント「エコプロダクツ展」に出展しました。エコプロダクツ展への出展は、今年度で3年目です。開催期間3日間の来場者総数は、約17万人となり、昨年度を上回る数でした。イベントでは、ヒグマ学習教材トランクキットの一部をブース内に設置しながら、知床での活動内容などについて来場者に解説しました。また、一昨年、昨年に引き続き、SEEDSのバックナンバーを配布したところ、来場者から好評を得ました。またブース内に設置した募金箱には、来場者の方から

37,500円のご寄附をいただきました。

知床自然センター・羅臼ビジターセンターの館内展示や知床財団ホームページでは、 賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れました。また、地 元への活動の PR の場として、町内のイベントに出展し知床財団が行なっている活動内 容の普及に努めました。

今年度、個人寄附としてお寄せ頂いた金額は2,899,743円となりました。法人寄附としてダイキン工業株式会社様、アサヒビール株式会社様、株式会社フェニックス様、他8社から総額6.081,644円の寄附をいただきました。

知床自然センター・羅臼ビジターセンターの館内展示や知床財団ホームページでは、 賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れ a ました。また、 地元への活動の PR の場として、町内のイベントに出展し知床財団が行なっている活動 内容の普及に努めました。

# Ⅴ. 人材育成業務

#### 1. ボランティア活動推進業務

昨年年度末でのボランティア登録者数は 172 名、その内の 34 名の皆さんが「100 平 方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼ビジターセンターを拠点にした展示物作成作業などに参加してくださいました。年齢層は 10 代から 70 代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は 81 日間、延べ参加人数は 147 人日となりました。

#### 2. 人材育成,就業体験受入業務

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ(就業体験)の受け入れを行いました。主に野生動物や環境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて6教育機関よりのべ11名の受け入れを実施しました。

# 公2:施設管理系事業 (受託事業)

# I. 知床自然センター等管理運営業務

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像展示館(ダイナビジョン館)の運営と料金徴収等の業務を行いました。今年度の知床自然センター入館者数は 147,351人で、前年比 86.5%となりました。また、映像展示館入館者数は 12,526人(前年比61.0%)、売上は4,691,255円(前年比64.1%)であり、いずれも昨年度を大きく下回っています。これは、リニューアルに伴う改修工事のため、10月26日からセンターが休館となり、仮設店舗(プレハブ)での営業になったことが理由と考えられます

その他、知床自然教育研修所の維持管理を行いました。今年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に 1,068 人泊の利用があり、462,500 円を施設利用料金として徴収しました。

# Ⅱ. 羅臼ビジターセンター管理運営業務

羅臼ビジターセンターの来館者数は、前年度比 117.8%の 41,634 名となり、これまでで最多となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点(羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等)の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を 5 回、特別展示を 6 回、例年どおり開催しました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者を中心にのべ21名、405泊の利用がありました。

# Ⅲ. ルサフィールドハウス管理運営業務

今年度より利用者の少ない冬期に閉館することとなり、開館期間は4月から10月の7か月間となりました(前年度は4月から10月および2月から3月の9か月間)。来館者数は7,388人で、前年度比は116.6%でした。知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーしました。

# 公3:調査研究系事業

# I. 独自調査研究事業 (独自事業)

#### 1. エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

知床半島内の重要なエゾシカ越冬地の一つとなっている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計 6 回実施しました。調査日はいずれも可猟期間外(休猟期間内)に設定しました。シカの確認頭数は 2 月中旬が最多となり、227 頭でした。最大確認頭数は 2013 年度が 472 頭、昨年度が 238 頭でしたので、同地区のシカは依然高密度状態を維持していると考えられます。また、遺産地域内外におけるエゾシカ捕獲事業(環境省事業・林野庁事業)によるエゾシカの行動変化などを把握するため、2014 年度の冬に GPS イリジウム首輪(酪農大より借受)を装着したメス成獣 2 頭の追跡を実施しました。それぞれ放獣地点周辺のごく狭い範囲(幌別地区、オシンコシン地区)で行動していましたが、2015 年夏~秋に 2 台とも電池が切れてしまいました。そのため、冬期の囲いわなによる再捕獲・首輪回収を試みましたが、わなの近くまでは来ていたものの、わな内に入らず、再捕獲できませんでした。

### 2. 幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

今年度は初夏と秋にドラム缶式ワナによるヒグマの生体捕獲を試み、10 月中旬にメス1頭(15B52,84.5kg)を幌別地区で捕獲しました。この個体は国立公園内の幌別地区と公園外のウトロ高原間を何度も往復しましたが、11 月中旬にウトロ高原農地の奥深くに入ってしまい、駆除的色彩の強い一般狩猟で捕獲されました。この個体の GPS データは、ウトロ市街地柵がヒグマに対する障壁として機能していることを示唆していました。また、外見のみでは個体識別が曖昧だったヒグマのべ 9 頭について麻酔銃による組織片採取(ダートバイオプシー)を行ない、遺伝子分析による結果を得ました(北大獣医学部との共同)。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨 65 個体分(斜里 47・羅臼 18)の標本を作製しました。

#### 3. ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析(分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など)によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。また自由に野外を歩き回っている4頭のヒグマ(メス成獣)を麻酔銃で生け捕りにし、GPS首輪の新規装着や回収等を実施しました。2015年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ65頭のうち、4頭がルシャ生まれの個体でした(ダイキン工業寄付金事業:北大・知床博物館との共同)。

#### 4. 知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾と羅臼側赤岩地区の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこで 3 年前からアサヒビール株式会社様からの支援により、ヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。今年度は文吉湾では、冬の間撤去していた電気柵を 5/17 に再設置しました。ヒグマは電気柵を忌避した一方で、柵の無い海中に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が再び観察されました。なお、赤岩地区では資材を追加提供したのみで、昆布漁業者が自主的に電気柵の設置作業を行いました。

# 5. 希少鳥類などの長期モニタリング業務

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシ長期モニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営をしました。当財団が調査担当となっている営巣木については、当年の営巣の有無や雛数等について情報収集しました。また、羅臼町内で糞や騒音等が問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査や足環標識による移動追跡調査を行ったほか、観光船による餌やりという課題を抱える海ワシ類については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、観光客の満足度等について調べました。

## 6. 海生哺乳類モニタリング業務

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのカウント調査を継続しました。今年度冬期の最大確認頭数は、2015 年 12 月 20 日の 88 頭でした。ただし上記の日も含めて、調査実施日(特に 11~1 月)に観察船や駆除船による攪乱をトドの群れが受ける機会が数年前よりも増えてきました。そのため、ドローン(無人航空機)による遊泳群の上空からの撮影を併用し、群れに含まれている標識個体の割合から全体数を推定する新たな手法(標識再捕法)も試みましたが、年末年始の推定来遊頭数は 74~131 頭で、直接カウント法と大きな差は出ませんでした。また 2 月初旬には国後島のクリリスキー自然保護区の研究員と連絡をとりあい、同じ日に知床沿岸と国後沿岸でトドをカウントする試みを初めて実施しました。今年度の冬期に標識個体は計 8 頭を確認し、すべて中部千島で出生した個体でした。そのうちの 1 頭(オス成獣)は、知床で確認された日の 3 ヵ月後に、色丹島で発見されたことがロシア側研究者からの連絡で判明しました。

#### 7. 水域における生物群集モニタリング業務

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、昨年度に引き続き各種生物を収集しました。また、 2012年に国後島と択捉島で採集した魚類と貝類についても同定を進めました。深層水 の貝類と国後・択捉の貝類については、採集種のリストを取りまとめ、5月に日本貝類

#### 8. 学術的な交流と成果公表に関する業務

#### 学会発表

- ○<u>野別貴博(知床財団)</u>,山崎友資(蘭越町). 国後島および択捉島で確認された貝類. 日本貝類学会 北海道蘭越 2015年5月
- o<u>Tsuyoshi Ishinazaka</u>, <u>Yasushi Masuda</u>, Masami Yamanaka

Conservation and management of sika deer in Shiretoko National Park.

The International Wildlife Management Congress 2015 Sapporo, Japan. 2015 年 7 月

oMasami Yamanaka, Yasushi Masuda, Tsuyoshi Ishinazaka

Recent advances and challenges in the conservation and management of brown bears in Shiretoko National Park.

The International Wildlife Management Congress 2015 Sapporo, Japan. 2015 年 7 月

- ○敷田麻実(北大),<u>能勢峰,秋葉圭太(知床財団)</u> 観光資源化する野生動物との新たな関係.世界遺産知床におけるヒグマ問題.「野生生物と社会」学会 沖縄大会 琉球大学(那覇) 2015年11月
- ○<u>能勢峰(知床財団)</u> 観光資源化した知床のヒグマの現状とリスク管理の多様化. 「野生生物と社会」学会 沖縄大会 琉球大学(那覇) 2015 年 11 月

#### 学会ポスター発表

- ○山崎友資 (蘭越町), <u>野別貴博 (知床財団)</u>, 川南拓丸 (岩内町). 北海道の海洋深層 水汲取り施設から汲み上げられる貝類. 日本貝類学会 北海道蘭越 2015年5月
- oRyoma Murakami, <u>Takane Nose, Tsuyoshi Ishinazaka, Yasushi Masuda, Masanao</u> <u>Nakanishi,</u> Hideaki Okada, Masami Yamanaka, Koichi Kaji

An evaluation of body mass and hind foot length as indicators of population monitoring in Hokkaido sika deer.

The International Wildlife Management Congress 2015 Sapporo, Japan. 2015 年 7月

oMichito Shimozuru, Jun Moriwaki, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, <u>Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda,</u> Toshio Tsubota

Reproductive parameters and male dispersal of brown bears in the Rusha area of Shiretoko National Park, Hokkaido, Japan.

The International Wildlife Management Congress 2015 Sapporo, Japan. 2015 年 7月

#### 学術誌

oDaichi Arima, Atsushi Yamaguchi, <u>Takahiro Nobetsu</u>, Ichiro Imai Usefulness of deep-ocean water pumping for the seasonal monitoring of mesozooplankton.

Regional Studies in Marine Science 2016: (3) 18-24.

oDaichi Arima, Atsushi Yamaguchi, Takahiro Nobetsu, Ichiro Imai

Seasonal abundance, population structure, sex ratio and gonad maturation of *metridia okhotensis* Brodsky, 1950 in the Okhotsk sea: analysis of samples collected by pumping up from deep water.

Crustaceana 89 (2) 151-161

○山崎友資, 野別貴博, 芳賀拓真, 千葉 晋, 園田 武

ロシア国サハリン州サハリン島から確認された貝類:特にカモメオオノガイ(新称) とチヂレカモメガイ(新称)について

ちりぼたん 2015: 45 (4) 262-283.

#### 紀要•報告書

○<u>石名坂豪</u>(2016) 知床地域のエゾシカの保全と管理. 知床博物館研究報告 特別号 1: 25-34.

○山中正実, <u>増田泰, 石名坂豪</u> (2016) 知床国立公園におけるヒグマの保護管理の近年 の進展と課題. 知床博物館研究報告 特別号 1: 55-78.

#### 知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計8回開催しました。当財団スタッフや関係機関等を含め、のべ230名ほどの参加がありました。

#### 9. シホテアリン世界遺産交流業務

2015年7月末に札幌で開催された第5回国際野生動物管理学術会議 (IWMC 2015) において、ロシア沿海州のシホテアリン自然保護区の副所長を招聘し、知床にも再訪いただく予定でしたが、先方の都合によりキャンセルとなりました。また、本年度は知床からシホテアリンへの訪問はありませんでした。

#### 10. ヒグマ対策手法の開発

昨年度に引き続き、出没を繰り返すヒグマが同じ個体か判断するための簡易な標識付け手段として、ヒグマを着色する方法を検討しました。今年度は、市販の防犯用カラーボールによる着色の持続期間を確認するため、冬期に耳標付きのエゾシカにボールを当てて着色し、その後の経過を追跡しました。その結果、2 か月後には完全に色が落ちていました。これまでに検討を行ったペイント弾等を含め、海外には実用的な品

物が流通していても国内には輸入できない製品が多く、着色によるヒグマの簡易標識付けは、国内では現時点では困難との結論に至りました。

#### 11. 知床 GIS データベースの作成

知床半島の自然情報、位置情報をキーとしてあらゆるデータを取りまとめる GIS データベース (ジオインフォしれとこ) の構築を進めています。今年度は 100 平方メートル運動地の植生図、シカの生息密度など各業務で作成しているデータをマップ化する作業を進めています。また公開データの著作権の扱いなど、情報公開のための基準作りを協議しました。

# Ⅱ. 斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業

#### 1. ヒグマ対策業務

#### 斜里町

今年度のヒグマ目撃件数は 1,487 件、対策活動が 987 件で、近年では 2012 年に次ぐ 大量出没年でした。ヒグマによる人身事故は発生しませんでしたが、ヒグマと自転車 が接触しそうになった事例、ヒグマが車に肢をかけた事例、登山者のテントがヒグマ に破られた事例、釣り人の荷物が荒らされた事例など、人身事故につながりかねない 危険事例(ヒヤリ・ハッと事例)は複数件発生しました。秋期のドングリ(ミズナラ) の凶作などの影響か、秋期に食物不足となったヒグマが半島基部の農地に出現し、多 数が有害捕獲や狩猟により捕獲されました。その結果、斜里町内におけるヒグマの人 為的要因による死亡数(有害捕獲+狩猟+事故)は 49 頭となり、過去最多でした。

#### 羅臼町

今年度のヒグマ目撃件数は 313 件、対策活動は 198 件で、いずれも近年では 2012 年に次ぐレベルの多さでした。また有害捕獲頭数は 17 頭で、大半がオスでした。

対策活動は地区別では羅臼市街地北側~岬町地区で多く、月別では 7 月が最多でした。7~8 月だけでの全対策活動件数の半分以上を占めました。

羅臼町では、2011 年度からダイキン工業株式会社様からの寄付を受けた羅臼町が順次電気柵の設置を進めています。知床財団は、これら電気柵の設置を羅臼町からの業務委託を受け実施しています。今年度は、市街地南側(緑町~羅臼小学校)に野生動物対策フェンスおよび電気柵を新設し、当初予定していた全区間への電気柵設置が終了しました。

#### 2. 自然環境管理対策業務

#### 斜里町

ゴミの不法投棄は32件あり、多くは食品の包装や容器などでした。国立公園内の幌別地区では衣服入りの段ボールが不法投棄されていた事例もありました。キツネなど野生動物への餌やり行為は、直接職員が目撃して公園内で利用者指導を行った事例が9月に1件ありましたが、キツネの行動を見る限り頻繁に行われている可能性が高く、継続的な普及啓発が必要な状況です。また、冬期にはウトロ市街地のコンビニエンスストア周囲などで外国人観光客によるキツネへの餌やり行為が目立ち、多言語の注意掲示が必要になりました。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお昨年度に引き続き、本年度もフンベ川河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は 28 件あり、珍しいものでは 11 月に窓に衝突死したギンザンマシコが回収されました。

#### 羅臼町

町内各地区で実施した計 30 回のパトロールでは、路上などに不法投棄されたゴミを 複数回発見、回収しました。

傷病鳥獣の対応は 38 件ありました。そのうち希少鳥類のオオワシとオジロワシへの対応は計 7 件でした。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業を行いました。目撃情報はアライグマが 0 件、アメリカミンクが 2 件ありました。エゾシカのライトカウント調査は、春期に 4 回(土砂崩れで 5 回目実施できず)と秋期に 5 回、ルサー相泊地区で継続実施しました。

## Ⅲ. 野生生物管理事業

# 1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。2013 年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、監視小屋周辺にカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等のカメラマン対策を、前年度に引き続き実施しました。また公園利用者の不適切な行為(キツネへの餌やりなど)に対する各種指導や、傷病鳥獣の保護収容を行いました。

さらに、斜里、羅臼および標津の 3 町を対象としている「知床半島ヒグマ保護管理 方針」の第 1 期 5 年間を総括する会議の運営、現行方針の評価、次期方針の検討など を行いました。

## 2. エゾシカ生息密度操作関係業務

今年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。 岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを 9 基、箱わなを 3 基稼働させ、流し猟式シャープシューティング(道路を閉鎖しての銃捕獲)を 2 ヶ所、遠距離狙撃等を斜里町内の 国有林 3 ヶ所で行ったほか、厳冬期にヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。3 月末までに囲いわなで 277 頭(岩尾別大型仕切柵:34 頭(春 7 頭、冬 27 頭)、幌別河口:51 頭、ウトロキャンプ場:26 頭、フンベ:7 頭、弁財崎:45 頭、オシンコシン①:30 頭、オシンコシン②:35 頭、ルサ:17 頭(春 6 頭、冬 11 頭)、相泊:32 頭)、金山川の箱わなで11 頭、シャープシューティングで61 頭(ルサ・相泊:38 頭(春 30 頭、冬 8 頭)、岩尾別:23 頭)、狙撃で4 頭(遠音別川)、巻狩りで15 頭(金山川:7 頭、遠音別川:8 頭)、さらに知床岬で34 頭(春 31 頭、冬 3 頭)の、計402 頭を捕獲しました。

# Ⅳ. 遺産地域調査事業

#### 1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。本年度当財団では、知床岬地区の調査をサポートしました。また、ルシャ地区において昨年度に麻酔銃で捕獲して GPS 首輪を装着した計 10頭のメスジカについて、行動範囲を調査しました。1頭だけ夏期に数日間だけ羅臼側に

移動した個体がいましたが、基本的に10頭すべてが1年中、ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。

#### 2. サケ科魚類の遡上状況調査業務

知床の生態系の陸と海を繋ぐ重要種として位置づけられているカラフトマスの遡上数と産卵床数についてモニタリングに係る調査を実施しました。対象河川は斜里町側のルシャ川とテッパンベツ川、羅臼町側のルサ川です。遺産登録後、数年に一度の調査が行われてきましたが、いずれの河川でも遡上数と産卵床数はともに最も少ないという結果となりました。調査結果は、第2回河川工作物アドバイザー会議で報告しました。

#### 3. 海域利用適正化推進業務

知床国立公園やその周辺海域の適正な利用を図るため、当該海域においてホエール・バードウォッチングを行う観光船に専門家と同乗し、観光船が作成したホエールウォッチング自主ルールの遵守状況や船の運航上の改善点、レクチャーの実施状況等を調査しました。また、各船共通のモニタリングのための調査用紙を作成し、回収した結果をとりまとめました。冬期には当該海域における観光船による海ワシ類への餌付けに関する観光船事業者によるモニタリング結果を同様にとりまとめました。

#### 4. エゾシカ航空カウント調査業務

2011 年以来 5 年ぶりに、知床半島のほぼ全域をカバーするエリアでエゾシカの航空カウント調査(ヘリカウント)を実施しました。半島全体の調査区 30 区画で 319 群 1,725 頭のエゾシカを発見しました。エゾシカの発見頭数は、5 年前と比べて半島西側で減少傾向、同東側で横ばいの傾向でした。現在の知床半島内でエゾシカの越冬密度が最も高いエリアは、遺産地域内かつエゾシカ捕獲事業を実施していないルシャ地区でした。

# V. 科学委員会等運営事業

知床世界自然遺産地域を適切に管理するために、科学的な見地からの行政への助言が科学委員会会議やその付属会議によって行われています。当財団は科学委員会(8/21 斜里町、2/28 札幌市)とエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議(8/27、11/12、ともに釧路市)の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレター作成などを担いました。

また、本業務の中において平成26年度の遺産地域の管理に関わる取り組みをまとめた年次報告書である「知床白書」の一部を執筆しました。

# VI. 自動車規制管理運営事業

2015 年度もカムイワッカ地区は、マイカー規制期間と自由通行期間が交互に切り替わる利用体制となり、現地での混乱を避けるため関係者間の調整が必要でした。同地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、運営の円滑化のためにバス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。

本年は、交通事故や山岳遭難等のトラブルも少なく、安定的に現地運用を行うことができました。

# Ⅶ. 知床エコツーリズム総合推進事業(独自事業)

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。適正利用・エコツーリズム検討会議(世界遺産科学委、利用適正・エコツーリズム WG と地域連絡会議、利用適正・エコツーリズム部会の合同会議)では、知床エコツーリズム戦略の本格的な運用が始まっています。地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、私たちもこうした取り組みに参画しています。知床財団では、9月に開催された同会議に「外国人旅行者向け情報発信の強化」を目的とした取り組みを提案し、検討部会の立ち上げが承認されました。今後は、検討部会の場で具体化に向けた協議を継続します。

また、知床五湖の新たな利用システムを広く地域の皆さんに体験してもらうため、「知床五湖町民ウェルカムキャンペーン」「くまレク見てトクキャンペーン」の2企画を昨年より継続して実施しました。ウェルカムキャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供しました。今年度は、昨年度14%増となる136組305名の参加がありました。

くまレク見てトクキャンペーンでは、五湖の新制度に賛同する協賛店舗を地域から募集し、地上遊歩道の利用者が協賛店舗で特典を受けられるサービスや店舗スタッフ向けのガイドツアー等を企画しました。今年は、26の地元店舗にご協力いただき、3,235人以上の方がキャンペーンを利用しました。

# Ⅷ. 知床五湖関連業務

2011 年より開始した知床五湖の利用調整地区制度は 5 年目を迎えました。新制度は ヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先 進的な取り組みとして注目を集めています。知床財団は制度運営の要となる指定認定 機関(環境大臣指定)として制度全体の運用を担っています。

ヒグマ活動期の実績は好調で、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中1

万人を超える利用者がガイドツアーに参加しており、知床五湖がエコツアーの発信地となりつつあります。通年の立ち入り認定者数は6万5000人を超えており、ヒグマの出没は少なくなかったものの安定的な運用が実現できました。

# 公4:森林再生系事業

# I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務

# (受託事業)

斜里町主催「しれとこ 100 平方メートル運動」の開始から 38 年、新運動「100 平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みが始まり 18 年が経過しました。この知床の森を守り育てる取り組みの中で、当財団は、森づくりやしれとこの森交流事業など 100 平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

#### 1. 森林再生推進業務

#### 森林再生作業

春から夏にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくりを行い、苗畑で育成したミズキなど中型(樹高 3~6 メートル)の苗 7 本を「森づくりの道・シカ柵内」に移植しました。防鹿柵の補修作業では、2003 年に設置した運動地内で最も広い柵(約 5ha)の木柱の老朽化が進んでいるため、鉄柱に更新していく作業にも着手しています。また、過去に巻いた約 800 本の樹皮保護ネットの点検作業を行い 608 本の現状を確認しました。その他、秋には、同じく苗畑で育成したミズナラなど大型苗 9 本(樹高 6m 以上)に樹皮保護ネットを巻いて、柵のない場所に移植しました。

2年後の2017年度には、本格的な森づくりの開始から節目の20年を迎えることから、次期20年間の目標立案に向けた準備を進めています。その一環として、森づくりの成果を計る指標となる最新の林相図の制作にも着手しました。

なお、長きにわたり「森の番人」として森林再生作業に携わっていた橋本勝氏は、今年度末をもって勇退されました。作業開始当初から現場を担ってきた「森の番人」の 功績は大きなものですが、今後も「森の番人」から引き継いだ技術や知見を活かし、 森づくりを進めていきます。

#### しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第 36 回知床自然教室」(7月 30日~8月5日、参加者 31名)、「第 18回しれとこ森の集い(植樹祭)」(10月 18日、参加者 79名)、「第 19回森づくりワークキャンプ」(10月 30日~11月4日、参加者 15名)の企画・運営を行いました。

「森の集い(植樹祭)」では、防鹿柵外に苗畑で育成したトドマツの苗木(244本)を植え付けています。近年の「森の集い(植樹祭)」では、広葉樹を柵内に植樹していましたが、各防鹿柵内への植栽が完了したことから、今回より柵の外にシカの嗜好性の低い針葉樹(トドマツ)の苗木を用いた植樹を行いました。

#### 森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。当財団では、今年度の活動の成果と課題をまとめるとともに、次年度の森づくり作業の具体的な方針や計画案を斜里町と検討を重ねながら立案しました。

11 月に開催した森林再生専門委員会議では、森林再生作業の進捗報告のほか、次期20年間の方針や目標策定についての議論を行いました。なお、次年度は、次期20年間に向け重要な年になることから、特例として同会議を2回開催する予定となっています。

#### 運動地広報企画

100 平方メートル運動の広報誌『しれとこの森通信 No.18』(A4 判カラー12 ページ)の企画・編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ『しれとこの森通信ミニ』(季刊)を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っています。

その他、運動ホームページでは、日々の作業状況を発信するとともにイベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。

### 2. 岩尾別川再生業務

ダイキン工業株式会社の支援をもとに、2011~2015年度の5年間「カツラの森、命あふれる川の復元事業」として、岩尾別川沿いの河畔林の復元と河川環境の改善に向けた作業を行いました。

事業最終年に当たる 2015 年度は、前年度に引き続き岩尾別川沿いの河畔林にて、防 鹿柵の設置作業を実施しました。最終的にこの 5 か年で河畔の森や河原を囲う計 3 基 (総延長計約 1.2 km) の防鹿柵を設置することができました。

その他、岩尾別川沿いの防鹿柵内に 2014 年度に植え付けたカツラ苗の管理作業を実施しました。冬期の積雪により、苗木の一部で雪折れ(枝が折れる現象)の発生やネズミ類による幹や枝への被食が目立ちましたが、多くの苗木は順調に育っています。

河川環境の改善に向けた取り組みでは、これまで行った作業の効果検証を目的とした空撮及び測量を実施しました。この 5 か年、試行錯誤を繰り返しながらも作業を行った結果、いくつかの場所では、人為的に狭められていた河道を広げることで、その後 2 侯に分かれた流路が形成されるなどこの川に適した環境が形成されつつあることが確認されています。また、この 5 年間を通して、今後の岩尾別川の環境改善を検討する上で必要となる基礎的な資料と知見を得ることができたことも大きな成果として挙げられます。

なお、本業務はダイキン工業株式会社様との協定に基づく斜里町からの受託事業と なっています。

# Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

# (独自事業)

本業務は、斜里町主催「100平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動地を含めた運動の普及と推進に、運動の現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

#### 1. 普及推進業務

知床自然センターに隣接する運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の開設運営を行いました。2015年度は、新規の取り組みとして、コース沿いの代表的な木々に樹名板などを取り付けた他、「樹皮保護の変遷」や「様々の防鹿柵」など森づくり作業の一端を紹介する実物展示の設置を行いました。5~11月末での開設期間にこのコースを訪れた利用者は、2382人となっています(今年度設置した計測カウンター数値による)。

教育機関を対象に行った取り組みでは、ウトロ中学校や斜里高校の授業の他、日本 赤十字看護学校(北見)を受け入れ、100平方メートル運動や開拓の歴史などを紹介し ました。また、新規の取り組みとして、斜里及び朝日小学校の 4 年生に対して運動を 伝える授業を実施しました。

合宿形式の森づくりイベントでは、「知床森づくりの日」を春と秋の2回開催し、計11名の参加がありました。また、ダイキン工業株式会社様からの支援の一環として、5月及び9月に社員ボランティアの受け入れを行いました。計23名が、知床の森を訪れ、森づくりに関わっていただきました。なお、この5年間で同社のボランティア受け入れを計9回実施し、総参加者はのべ104名となっています。

#### 2. 岩尾別川における基礎調査及び生物相復元

本事業では、岩尾別川流域で行われる各種作業(「カツラの森、命あふれる川の復元事業」)を科学的な裏付けをもってその成果を検証するため、対象となる生物種や河川環境について、現状把握と河畔林と河川環境の調査を行っています。

今年度は、過去4年間に引き続き、同河川の定点観測ポイントにて、魚類の生息状況 と河川構造の現状を把握する調査を行いました。また、岩尾別川沿いに設置している 防鹿柵内外の植生調査も継続実施しています。なお、5ヶ年事業の最終的な報告につい ては、これらの調査を行った東京農大とともに取りまとめを行っています。

また、河川生態系の復元にあたって、100平方メートル運動において生物相復元対象として認定されているカワウソの復元を将来の究極目標と位置付け、その可能性についての検討を進めています。2015年度は、カワウソの保護や導入を行っている欧州各国(イギリス・ポーランド・ドイツ)を訪れ、カワウソの生息環境を確認するなど海

外事例の収集を行いました。今後は、これまでの調査や視察結果を取りまとめ、その 結果をもとにカワウソを含めた生物相復元の方向性について検討を行います。

なお、これらの取り組みはダイキン工業株式会社様との協定に基づく財団独自事業 として、知床博物館や東京農大など外部の研究者と連携を図りながら進めています。

# 収1:収益事業

# I. 販売·有償貸出業務

当財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。 2015 年度は知床世界自然遺産 10 周年の年に当たるため、知床の生物多様性を広く一般の人々にアピールすることを目的に 52 円の記念切手シートを 1,000 枚、82 円の切手シートを同じく 1,000 枚作成・販売し、9 月のシルバーウィーク期間中に完売しました。 株式会社フェニックス様とのコラボレーション商品、オリジナル T シャツは今年度も好評で、計 672 枚販売しました。

オンラインショップ「コムヌプリ」で知床財団個人会員に入会いただいた方は、今年度は、個人終身会員 3 口、300,000 円(昨年度 9 口)、個人年会員新規登録 27 口、135,000 円(昨年度 35 口)、個人年会員更新登録 88 口、440,000 円(昨年度 90 口)あり、オンライン上での個人年会員の更新手続きが引き続き好調です。

知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出を行いました。今年度は、ヒグマ撃退スプレー281件、フードコンテナ 18件を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてスライド画像を用いて 20 分程度のレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有料貸出を実施し、長靴 1,268 件(夏:800 件、冬 468 件)、双眼鏡 69 件の利用がありました。また冬季において、入館促進および来館者の満足度向上のために実施しているスノーシューは、585 件の貸出がありました。 羅臼ビジターセンターにおける長靴のレンタル業務では、60 件の利用がありました。 2015 年度の販売売り上げは 18,910,900 円、また、レンタルによる売り上げは 1,338,146 円となりました。

# Ⅱ. 研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2015 度は3,166,403 円の収入がありました。

# 2015 度度 研修・講演・視察対応等受け入れ実績一覧

	1971 1971 1971 1971 1971 1971 1971 1971			
	受入区分 ウトロ	日 付 5月19日 ~23日	内容	対象 定山渓自然の村 (公益財団法人さっぽろ氏少年女性活動協会)
	ウトロ		「ヒグマに対するリスクマネジメント」	(公益財団法人さつはち氏少年女性活動協会) 摩周・屈斜路パークボランティア講習会 (環境省 川湯自然保護官事務所)
	ウトロ/ 羅臼	6月25日 ~26日	知床国立公園・世界遺産地域における野生動物の保全および 人との軋轢に関する取組、森林再生事業	JICA研修 (特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所)
	ヴトロ	7 E 2 D	へとの礼味に関する収益、林林舟士争業 知床における森林再生の取り組みの現状と課題	東京農業大学 生物産業学部 生物産業学科 植物資源保全学研究室
	ウトロ		ヒグマ対策	釧路湿原パークボランティア講習会
実 習 受け入 れ	ウトロ	7月4日	「世界自然遺産知床の価値と課題」 ダイナビジョン映像鑑賞、100平方メートル運動の森・トラストの現地講義	日本赤十字北海道看護大学
11	ウトロ	8月23日	海城学園生物部 知床実習	海城学園生物部
	羅臼	8月25日	世界自然遺産知床の自然とその課題	北海学園大学
	ウトロ	9月2日	世界遺産マネジメントと環境	JICAハマナス財団 (公益財団法人 ハマナス財団)
	ウトロ	9月8日~ 9日	知床フィールド実習	酪農学園大学
	ウトロ	9月14日 ~17日	知床フィールド実習	北海道大学獣医学部
	羅臼	6月20日	知床の自然と北方四島	羅臼町
	ウトロ	7月2日	世界自然遺産登録について	岐阜市議会
視 察 受け入	ウトロ	7月11日	「知床における生命の連環について」 「世界自然遺産・知床の今、そしてこれから」	緑の探検隊
れ	ウトロ	8月5日	・先進的な野生生物管理について ・自然環境の保護と利用のバランスの取れた取組について	長崎県議会環境生活委員会
	ウトロ	9月30日	自然資源を保全・活用した観光開発の可能性について	宇検村商工会
	ウトロ	9月30日	シカ・クマの駆除について	石川県中能登町区長会(東武トップツアーズ)
	ウトロ	4月29日	みどりフェスタ2015	斜里町
	羅臼	5月27日	ヒグマの基本的な生態、遭遇した時の対処法などについて	山洋建設㈱
	ウトロ	6月13日	知床の自然について	西武学園文理小学校4年生
	羅臼	6月22日	ヒグマの生態と環境教育	根室管内市町教育委員会教育委員
	ウトロ	6月24日	知床の自然について	岡山県立岡山城東高等学校
	ウトロ	9月16日	知床自然概論 北海道知床におけるクマ人身被害対策の方法についての紹介及び	北海道立斜里高等学校
	ウトロ	6月26日	本県日光市戦場ヶ原等の観光地における取組についてのアドバイス	栃木県環境森林部自然環境課
	ウトロ		施設概要 等	北見市第12民生委員児童委員協議会
	ウトロ		登山道整備に関するヒグマレクチャー	畑中産業  釧路湖陵高等学校スーパーサイエンススクール
	羅臼		知床における自然保全の課題および取り組みについて 世界遺産に登録されている「知床」の「北方四島を含めた自然および	(国立研究開発法人 科学技術振興機構) 電機連合
	ウトロ	9月13日	生態系の保護と産業振興(観光・漁業等)」についての課題や対策について	(東芝ツーリスト㈱) 朝日新聞北海道支社
	ウトロ		アサヒHTB他起動フォーラム2015「知床の明日を考える」(仮題)	
講演	ウトロ		工事関係者向けたグマレクチャー	株式会社 つうけん 北見事業者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
特別講 師 客員教	ウトロ		人口減少と地域創生を共に考える道民フォーラム	「人口減少問題を共に考える事業」事務局
授 アドバイ	ウトロ		ハロ 成 少 こ 心 吸 耐 エ と 六 に 「	(株式会社 ノヴェロ 内) 知床五湖登録引率者部会
ザー	ウトロ		屋久島シカ捕獲手法検討調査業務	ハ千代エンジニアリング株式会社
	ウトロ		北海道観光を支える人材育成研修	一般社団法人 北海道中小企業家同友会
	羅臼	11日21日	千歳船橋「知床まつり」イベント出展	世田谷区干歳船橋 町内会等一般
	ウトロ	11 日 20 日	「野生生物と社会」学会	北海道大学
	ウトロ		日本の国立公園と知床について	明治大学
	ウトロ	12月9日	ヒグマと生きる未来を考えるフォーラム	NPO法人 日本エコツーリズム協会
	ウトロ	12月12日	身近な動物について知ろう~ヒグマってどんな動物?~	小学4年生から6年生(一般財団法人 中標津町文化スポーツ振興財団)
	ウトロ	1月8日	ヒグマなどの道東地区に生息するヤセ生物と私たちとのかかわりについて	小学4年生から6年生(北見市 市民環境部 廃棄物対策課)
	ウトロ	1月24日	世界自然遺産 知床の魅力、保全・管理とその課題 第26回 テレビ部会地域会議 in 北海道 ~札幌2016~	公益社団法人 日本照明家協会 北海道支部
	ウトロ	2月1日	さっぽろヒグマフォーラム 市民ヒグマ講座	札幌市環境局 みどりの推進部みどりの推進課
	羅臼	11月6日	水産学特別講義	東京農業大学
	羅臼	2月7日	生物学集中講義	北大理学部
	羅臼	3月5日	羅臼町郷土資料館講座	羅臼町郷土資料館

# 他1:その他の事業

# I. JBN業務

日本クマネットワーク(JBN)からの受託業務として、JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBN ホームページの運営管理を行いました。年 3 回発行の JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ 889 件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計 46 部を販売しました。ホームページについては、日常的な掲載内容の更新を中心に、幅広い運営業務を JBN 事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っている NGO 組織です。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ300名で構成されています。

# 法 1:財団法人管理運営事業

# I. 財団法人管理運営業務

理事会は、第1回理事会(5月)を開催し、「平成26年度事業報告及び、決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、賛助会員入会承認」について審議しました。第2回理事会(10月)は、「賛助会員入会承認」の審議を行いました。第3回理事会(12月)は、「賛助会員入会承認及び、特定個人情報等取扱規程の制定」について審議しました。第4回理事会(3月)は、「平成28年度事業計画案及び、収支予算案、資金調達(短期借入金)の限度額の設定、職員給与規程の一部改正、期限付雇用職員就業規程の一部改正、鳥獣捕獲等事業の実施に係る安全管理規程の制定、賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会(6月)は、「平成26年度損益計算書(正味財産増減計算書)及び、貸借対照表、任期満了に伴う評議員の改選、評議員長の選出」について審議しました。また、年2回以上の開催が義務づけられている代表理事と事務局の運営会議を9月と3月に開催しました。その他、理事会・評議員会の開催時に事務局会議を行い、3月には今後5年間の「中期的経営収支の試算(平成28~32年度)」を作成しました。